

2012年度第2四半期のご報告 2012.4.1→2012.9.30

ぴあ  
40th  
Anniversary

# はじめに遊びがあった

TEAM  
SMILE

明日をつくる笑顔をつくる。  
今こそ、エンタテインメントの力を。



～2012年7月10日 創業40周年記念日に ぴあ本社オフィスにて～

ぴあ株式会社



## MESSAGE

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ぴあグループの2012年度上期決算をご報告するにあたり、ひと言ご挨拶を申し上げます。

2期連続の連結黒字となった昨年度からの一層の安定黒字基盤の確立に向けて、当連結会計年度は利益の倍増を目指しております。11月8日に発表しました4月から9月の上期決算では、大型興行のチケット販売が音楽ジャンルを中心に好調に推移し、売上高・利益ともに期初予想を上回る結果となりました。

今年度は、新たな中期事業計画(2012～2014年度)もスタートさせました。既に、インターネットのさらなる活用策のひとつとして、チケット販売サイト「チケットぴあ」を大幅にリニューアルしたほか、アライアンス戦略の一環として、ASP型チケット販売システム「Gettii (ゲッティ)」を運営するリンクステーション社や、国内最大級のクラブイベント情報サイト「iFLYER (アイフライヤー)」を運営するセブン・セブン・ハーツ社との業務提携を開始するなど、様々な施策を着実に進捗・展開しております。

当社は今年7月に、創業40周年を迎えました。これからも『ひとりひとりが生き生きと』の企業理念のもと、ぴあグループのビジョン「感動のライフライン」の実現に向けて邁進してまいります。

末筆ではございますが、この場をお借りして改めて御礼を申し上げますとともに、皆様におかれましては、引き続き暖かいご理解とご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。



代表取締役社長

矢内 廣

## VISION <対談>

# “幸せな体験”を次々と生み出す会社であり続ける



矢内 廣  
Hiroshi Yanai  
ぴあ株式会社  
代表取締役社長

小西 利行氏  
Toshiyuki Konishi  
株式会社POOL  
CEO & Creative Director

### プロフィール

コピーライター/クリエイティブディレクター/1993年株式会社博報堂入社後、2006年株式会社POOL設立。日産セレナ「モノより思い出。」、サントリーの伊右衛門、ザ・プレミアム・モルツ、エスプレッソダの他、LEXUS、SONY make/believe、プレイステーションなど多数

の広告キャンペーンや商品開発を手がける。東京女子プロジェクトを主催。越谷「イオンレイクタウン」、横浜「Yotsubako」などの商業施設開発や空間演出、作詞などの音楽活動、絵本作家、舞台演出など、広告界以外でも幅広く活躍している。

### ぴあは幸せな驚きと体験のカタマリ

矢内:最初に小西さんにお会いしたのは、情報誌「ぴあ」のリニューアルをお願いしたアートディレクターの森本千絵さんからのご紹介でした。その後、ぴあの企業理念「PIA IDENTITY」(以降PI)の冊子リニューアル、「ウレぴあ」サービスのコピーやプロモーションなど、小西さんにはいろいろお世話になっています。

小西:ぴあさんから最初にお話をいただいたときは、とにかく嬉しかっ

た。僕が中学生～高校生の頃は、毎号「ぴあ」を見ていました。当時は映画が本当に好きで、1年で200本くらいは観ていましたから、学校にはいつも「ぴあ」を持って行って、どう組み合わせたら1日何本映画が観られるのか、といったことばかり考えていました。僕の体の一部は「ぴあ」でできていると言ってもいいくらいです(笑)。

矢内:それは嬉しいですね。実は最近お会いした若い人のなかで、特に刺激を受けた人物のひとりが小西さんなんです。優れた時代感覚をお持ちで、世の中を一步リードして物事を見ている方だと感服しまし





た。単なる現象としての新しさを捉えるだけでなく、根底に流れている本質を見据えていらっしゃることに、とても刺激を受けたし、共感を覚えました。

小西: そうおっしゃっていただけると非常にありがたいのですが、自分ではめちゃくちゃ凡人だと思っています。もともとは、面白いことを考えられる人間ではないんです。だからこそいつも毎回必死で考える。はじめに正解と想った考えは、ひとまず否定して考え直す。今はどうなっていて、何をしたらもっと面白くなるのかを考えようとする、先を見ざるをえないんですよ。

矢内: その、もっともっと、という思いはプロフェッショナルリティですよ。小西: 新しいものを世に生み出していく人は、本当にすごいと思います。ぴあは、新しいものを驚くほどまでにバンバン世に出してきた。情報誌「ぴあ」はもちろんそうですが、チケットを現在のような形で買うスタンスがない時代に「チケットぴあ」を誕生させたり、僕らの周りにおいて、イケてるな、ウレしいなと思うことを次々に出してくる活動体であり企業体であり、体験の塊でした。いったいどういう人がこんなことを考え出して、何がどうなってあんなに楽しんでいるのかと思ってました。

矢内: 小西さんから、ぴあが珍獣奇獣に見えますか(笑)。

小西: いや、良い意味で面白い。面白いとは幸せな驚きがあることだと思いますが、ぴあは幸せな驚きの塊だったし、これからもそうあって欲しいです。雑誌だから実際は一定サイズの紙の塊なのですが、「ぴあ」には情報と体験がいっぱい詰まっていたので、意識の中では実物のサイズを大きくはみ出したものでした。俺だけが見つけた! みたいな探す喜びもあったし、気づきをくれた。単なる情報を得るツールではなく、体験装置だったのだと思います。

## インターネットは個から全体、点から面の時代へ

矢内: 今、コミュニティはネット社会の代名詞のように言われていますが、昨年この報告書(2011年度第2四半期)で対談させていただいた「ソーシャルメディア進化論」の著者、エイベック研究所の武田隆さんの言葉を借りると、ぴあはアナログの時代から紙をベースに、読者との関係性においてある種のコミュニティを形成してきた。インターネットがやっとならぬコンセプトに追いついたのだ、と武田さんはおっしゃってくださいました。

小西: 僕も同感です。コミュニティという点では、僕もブログ、TwitterやFacebookなどのSNSを一応やっていて、いずれもすごいなと思うけれど、「ぴあ」と決定的に違う点は、それを愛しているか否かなんです。SNSは提供された価値ののっかって便利だから使っているけれど、僕は「ぴあ」を愛していたんですよ。「ぴあ」がなくなったら僕のアイデンティティはなくなってしまうとさえ思っていました。「ぴあ」が形成したコミュニティなら、直接トークしたことがない人同士でも、いまだにいくらでも語り尽くせる気がします。一方、30年後にFacebookやTwitterについて語れるかという、そういえばそんなのもあったねえ、くらいで終わってしまうんじゃないかな。

矢内: そういえば僕はTwitterから、最近はずいぶん遠のいてしまいました。不特定多数に対してコミュニケーションすることが最初は面白かったんですが、2日くらいツイートしないと、書かなくてはという強迫観念に駆られるようになり、だんだん何のためにやっているのかわからなくなりました。

小西: Twitterは、手軽に自らがブロードキャスト力を持てるツールとして、ものすごい力を持っているメディアだと震災以降よく言われます。それは正しいけれど、一方で自分を伝えることに人々が飽きてきたというも確かだと思います。本当のコミュニティというのはもっと柔らかいもので、そこに存在していることで幸せな感じがしないと、なかなか続かないですよ。「ぴあ」のコミュニティには幸せな感じがある。

矢内: 昨今は量で物事を測るという風潮が強まったとも感じています。インターネットのアクセス数が多い順に並べたランキングが、あとか

も良いものの順番というふうに映ったりする。でも物事の本当さという点では、必ずしもそうではないんですよ。

小西: 映画の年間興行成績ランキングなども、正直あまり関心がない。むしろ、矢内さんが実際に観て本当に面白かった映画TOP10の方が興味を引きます。矢内さんが面白いとおっしゃるなら観たいとなる。それは矢内さんへの信頼度、興味度の高さだったり、情報の深みの違いなんですよ。

矢内: 確かにいま、「不特定多数から特定少数へ」、「量から質へ」より中身の濃いコミュニケーションへとシフトが始まっているように思います。「ぴあ」の休刊後、いろいろな人たちから、いまだどんな映画をやっているかわからなくて困っている、と言われるのです。かつては「ぴあ」を見ながら、こんなものをやっているんだ、今日はこの映画を観ようかな、と選んでいた。そういった選び方が、ネットには不向きなんですよ。小西: ネットは情報の総覧ができるはずなのに、不思議ですよ。ネットは便利でいろいろなことが無限にできるものだと思いますが、抜けているところはたくさんあります。例えば、誰かの意見を聞きたくても全てのブログを読み返すのは苦しい。それが編集されて、常に手に取ることができたのが「ぴあ」だったわけで、そのネット版が登場すれば、ニッチかもしれませんが欲しいと思っている人は確実にいるのではないのでしょうか。

矢内: まさにネットはワード検索で、点のものにダイレクトに到達するには便利かもしれませんが、面を見たい、個から全体を見たい、というニーズがどんどん高まりつつあるように思います。実は、それをネットで実現しようと、新たなサービスを検討中です。もうしばらくお待ち下さい。

## 今だからこそ企業理念(=PI)を共有し、体験と結びつけ実感することが重要

矢内: 昨年7月に「ぴあ」が休刊になり、世の中がネットにシフトしている中、我々もそれを前提にした形で事業展開していこうとしています。今までは「ぴあ」を前提にして物事を考え、発想してきたところがあるところがあったのですが、それをまっさらにして、新しいスタートを切り



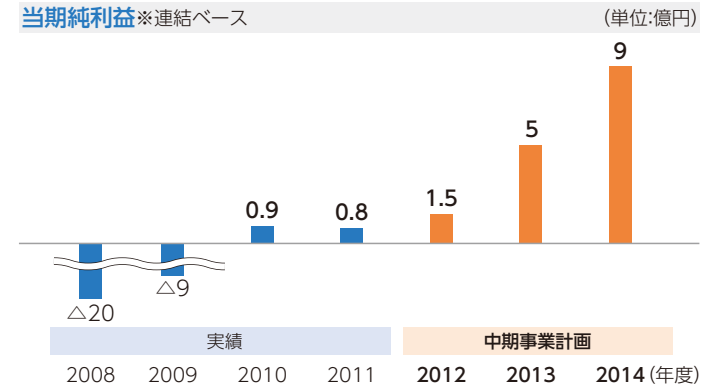
直そうとしています。その時に企業理念であるPIが古ぼけたものではなく、このような新しい時代にこそますます必要で大事なものであるということを経営の皆と共有したいという気持ちがあります。一方どこかで、こういうことは拡声器を使って大声で伝えるべきことではないのではないかと、という思いもあるのですが。小西: 全社に向かって大声で伝えることが、実際に伝わることではないのだと思いますよ。「ああ、面白いことやったな」と実感したときに、ふとPIの「はじめに遊びがあった」という言葉がずっと胸に落ちてくる、そんなものではないでしょうか。困ったり行き詰ったりした時に、PIの言葉が気力の防波堤というか、リ・スタートのきっかけになれば良いと思います。言葉の力とはそういうものではないでしょうか。矢内: いまどき企業理念なんて、という向きもあるかもしれませんが、PIをいま一度見つめ直し、共有するために、デザインやコピーを若い世代向けにアレンジして欲しいと小西さんをお願いしました。その際、短い文章が載っているものを読んでいただいただけで、こんなにも早く理解してもらえたという驚きがありました。

小西: 僕からすると、すごくスムーズな話で、全ての言葉が同じ共通概念、同じ川に流れている感じでした。僕はぴあそのものに興味があったし、PIの中身が日頃考えていることに近いということがあったかもしれません。この冊子に書かれている言葉は、これが全てではなくて、これだけでもなくて、これをきっかけに自分が思っていたこと、やってきたこととに結びつけられるかが重要なんだと思います。例えば、「はじめに遊びがあった」という言葉がありますが、自分の生き方と照らし合わせても応用がきくんですよ。「はじめに理屈があった」という仕事はたくさんありましたが、大概が世の中にはウケない(笑)。はじめに遊びがあって、ちょっとやんちゃしてイタズラしてやろうぜ、くら

# 中期事業計画(2012年度～2014年度)の進捗

## テーマ：再生モードから成長モードへ

当社及び当社グループは、創業40周年を迎えた2012年度を初年度とする新たな中期事業計画(3ヵ年)を策定しています。そのスタートの年となる今年度は、利益成長の実現をテーマに掲げ、利益倍増を見込んでいます。なお、中期的な業績イメージとしては、2014年度の当期純利益9億円レベルを目指していきます。



## 重点施策

これまでの再生モードから未来志向の成長モードへのシフトを行なうことを目的とした中期事業計画では、以下の重点実行項目を掲げ、コンシューマー・コンテンツホルダー・興行主催者の3方面に対して、より付加価値のあるサービスの提供やブランドの構築を目指しています。

### インターネットのさらなる活用

レジャー・エンタテインメント領域の情報流通とトランザクションがインターネット上にリンク、或いはシフトしていく中で、ぴあのブランド・サービス・プラットフォーム・メディアをインターネット上で磨き上げ、「エンタテインメントといえばぴあ」という時代を創ります。

### 既存事業の盤石化、経営資源の選択と集中

レジャー・エンタテインメント領域への経営資源配分をより戦略化し、効率化することで、展開中の大小様々な事業・サービスの競争力強化を推進します。また、これを目的に、従来2つに分かれていた事業セグメントを変更・統合します。

### アライアンス戦略の推進

外部の企業・外部のサービスとの連携・アライアンスをこれまで以上に推進し、成長速度を加速します。

### 新規事業

将来の成長戦略の一つとして、新規事業の準備を怠りなく進めていきます。

いがちょうど良いんです。すさまじく真面目な仕事も、はじめに遊びがないとダメなんだなと気付いたりもしました。PIには「夢を持った起業人になる」とか、「感動のライフラインをつくる仕事」とか、普通の会社ではあまり言わないようなことも書かれているのですが、このようなスピリットを自分たちの会社は伝えようとしているんだ、と社員の皆さんが実感することはすごく意味のあることだと思います。

企業理念[PIA IDENTITY] (PI)の冊子

## 体験と繋がり、発掘と応援をし続ける。それがぴあの社会的役割

矢内:小西さんにロゴマークを手掛けていただいた復興支援「TEAM SMILE」の活動を1年少し続けてきました。最初の年は、チャリティコンサートや渋谷のハチ公前でのイベント、募金活動などを展開しました。僕は福島県出身なんですけど、現地に行くと復興は長期戦だなと実感します。支援活動というのは一般に、1年目は義援金が多く集まりますが、2年目、3年目になるとぐっと減るもので、実はこれからが本番です。継続的に支援していける仕組みを作らなければならないと考えています。また、支援する側からされる側へという一方通行ではダメだと思っていて、被災者の方々には自分の両の足で立ち上がるんだ、という気持ちになってもらいたいし、それを我々が一緒になって共有していかなければならない。そこで「TEAM SMILE」を一般社団法人化し、共感の拠点となるような“場”が作れないかという構想を描いています。

小西:お話を聞いて、あ、ぴあっまいなと、スカッとしました。こういうことをやるのは、ぴあくらいしかないんですよね。他の会社や他の活動体がやっていなくてぴあがやってきたことというのは、「体験」「繋がり」「発掘」「応援」の混在なんだと思います。だからこそ、僕らにとってぴあはなくてはならない存在となっていた。繋がりはSNSでも形にできていますが、体験はできていない。ネットで体験もできるかもし

れないけれど、発掘と応援まではできない。これらがうまくひとつの形になっているものは他にないんですよね。ぴあがやろうとしていることは、体験と繋がりはもちろん、発掘と応援も可能にする話だから、スカッとするんでしょうね。

矢内:体験、繋がりは観に行こうとする人のこと。発掘や応援の対象は、新しい文化を創ろうとする、新しい表現活動をする若い人たちの話。この観る側と演じる側の関係が循環する仕組みが必要なんですよ。エンタテインメントという言葉に代表されるように文化をビジネスとしてとらえた時には、いかに消費させお金を落とさせるかということが主眼になるわけですが、そこに文化を創造する、新しいものを発掘することが付加されない限りは循環しない。PFF(ぴあフィルムフェスティバル)では、ずっと発掘・応援を続けてきたわけですが、そういう循環活動がきちんと繋がっていくことが必要であり、我々はその装置を作っていかなければならないと考えています。

小西:放っておくとお金は儲かったけれど消費されるだけで終わってしまう。そうさせないようにしようとする企業はカッコいいし、いいなあと思う。最近はそういう企業の姿勢に世の中は共感するんですが、実際にグループさせている会社は少ないと思います。

## “マス”・コミュニケーションから“フェス”・コミュニケーションへ

小西:マス型のコミュニケーションは一方通行でしたが、肩を組んで、皆で盛り上がり、同じものをみて感動し共感する、体験して繋がっていることを最近はずごく重要視するんです。小さい情報発信でも、SNSを通じて「いいね!」と一斉に言うことで、皆が体験する。一体感を得られることが幸せであり、多くの情報をもらうことが幸せではない。こうしたフェス型のコミュニケーションを待ち望んでいる人たちに対して、そのような場を作って、盛り上がろうという感覚を作ることができる会社はぴあしかない。新しい時代のコミュニケーションのスタンスに何か施策を出してくれると良いなと思います。

矢内:小西さんからは大きな宿題をもらいました。期待にこたえられるように頑張りたいと思います。今日は本当にありがとうございました。



## インターネットのさらなる活用

### チケット販売サイト「チケットぴあ」「@ぴあ」を統合し大幅にリニューアル

チケット販売サイト「チケットぴあ」の大幅なリニューアルを今年9月に行ないました。総合エンタテインメントサイト「@ぴあ」を統合し、特集記事や編集部独自のランキングなどメディア的要素を強化。さらに各種ソーシャルメディアとの連携、お客様の登録情報や購入履歴をもとにオススメのチケット情報をお届けするレコメンド機能、公演に関するレビューサービスなど利便性の高い様々な機能を搭載し、ユーザービリティの向上とチケット売上のさらなる拡大を図る予定です。



トップページ

アーティストページ

## アライアンス戦略の推進

### 株式会社リンクステーションとの包括的業務提携に合意

興行主催者向けのソリューションサービスの強化を目指す。ASP型チケット管理シ



ステム「Gettii (ゲットイ)」を運営する株式会社リンクステーション(本社:青森)と包括的業務提携に合意。ぴあが持つ経験やノウハウ、営業ネットワークと、リンクステーションが運営するシンプルかつユーザービリティの高いシステムの双方の強みを活かし、来年春にも新サービス「ぴあ Gettii」をスタートすることとなりました。新サービスでは「Gettii」の仕組みをベースにチケットングに関する情報提供、各種マーケティング機能などを網羅。興行主催者向けに安価で簡便な仕組みを提供するとともに、ユーザーの皆様にはさらに便利でわかりやすいサービスをお届けする予定です。

### 株式会社セブン・セブン・ハーツとの資本・業務提携に基本合意

若年層や特定のファン層を抱えるニッチなマーケットをいち早く取り込むべく、国内最大級のクラブイベント情報サイト「iFLYER (アイフライヤー)」を運営する株式会社セブン・セブン・ハーツと今年9月に資本・業務提携に基本合意しました。同サイトは各種ソーシャルメディアとの多様な連携、ならびに一般ユーザー・会場運営者・アーティストなどが独自にイベント情報を登録できる機能が主な特徴です。今般の提携により、両サイト間におけるシームレスな販売・プロモーションを実現するとともに、チケット取扱高の拡大、次世代型チケットングサービスの構築を目指します。



### 「チケットぴあ スマートフォンサイト」の機能を拡充

増加の一途を辿るスマートフォンユーザーに向けて、昨年11月よりスタートした「チケットぴあ スマートフォンサイト」の機能を今年6月に拡充。従来のチケット購入に加え、先行抽選販売の申込みやマイページ機能など、「チケットぴあ」(PC版)で提供中の全サービスをスマートフォンで快適にご利用いただけるようになりました。



### 映画選びをより楽しく 映画専門サイト「ぴあ映画生活」に新機能を追加

映画専門サイト「ぴあ映画生活」において、映画選びをより楽しく、便利に行なえる新たなサービスが今年6月よりスタートしました。同サービスは、上映中の作品を予告編動画、チラシビジュアル、上映スケジュール情報と組み合わせで公開週単位でご紹介するもので、予告編動画は連続再生も可能なため、観賞用のコンテンツとしてもお楽しみいただけます。今後も映画ファンの皆様にご満足いただける革新的なサービスを提供してまいります。



## 既存事業の盤石化、経営資源の選択と集中

### 大規模、優良興行への出資を拡大

ライブ・エンタテインメントへのニーズが高まる中、話題性の高い大規模・優良興行への出資を拡大しています。今年5月には2010年より開催している野外ロックフェス「ROCKS TOKYO」に主催社の一社として携わり、8月には毎年10万人以上が来場する「2012 神宮外苑花火大会」を共催。また、東京・上野にて現在開催中の「ツタンカーメン展～黄金の秘宝と少年王の真実～」に主催参画した他、11月にはぴあ創業40周年記念イベント「MUSIC COMPLEX 2012」を単独主催し、当社の収益性向上につなげています。



「ROCKS TOKYO」  
©ROCKS TOKYO 2012  
All Rights Reserved



「ツタンカーメン展」  
ツタンカーメンの棺形  
カノポス容器(内臓が  
保管されていた器)



「神宮外苑花火大会」

### 特定のアーティストを取り上げたムック本を続々と刊行

日本を代表する人気アーティストを特集したムック本を続々と展開し、ご好評いただいています。今年7月には矢沢永吉のデビュー40周年を振り返る「R&Rぴあ」、9月にはレーベルを超えたオールタイム・ベストアルバムを初めてリリースした山下達郎を特集した「ぴあ Special Issue ～山下達郎“超”大特集号～」を刊行、そして7年ぶりのオリジナル・アルバムを発表したシンガー・ソングライター ASKAの初のムック本「ぴあ&ASKA」を10月に発売し注目を集めました。



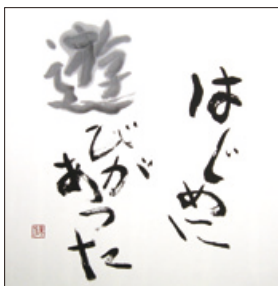
文化支援活動 他

40回目の創業記念日 渡辺プロダクション・渡邊名誉会長揮毫の書を掲示

2012年7月10日をもって、ぴあ株式会社は創業40周年を迎えました。節目にあたる今年度は従業員一同が原点に立ち返り、一丸となって新たなぴあを創り上げると意識を皆で共有すべく、企業理念のひとつである「はじめて遊びがあった」の書を東京本社オフィスのエントランスに掲示。同書は、日本のエンタテインメントビジネスの先駆

者として知られる株式会社渡辺プロダクション・渡邊美佐名誉会長の揮毫によるものです。

※同報告書の表紙に使用した写真は、今年の創業記念日に渡邊美佐名誉会長、及川正通氏をお招きし撮影したものです



震災復興プロジェクト「TEAM SMILE」活動を継続 一般社団法人を設立

2011年3月に発生した東日本大震災を受け、社内の有志からの呼びかけにより発足した震災復興プロジェクト「TEAM SMILE」。チャリティコンサートやイベントの開催、義援金チケットの販売などエンタテインメントを通じた様々な活動を行なってまいりました。今後も継続的な活動を展開するとともに、外部の方からも広く支援を集めるため、今

年10月に一般社団法人「チームスマイル」が設立されました。被災者の方々と支援者がともに立ち上がることでできる新たな仕組みを作っていきたいと考えています。



株主懇談会を名古屋にて開催

ぴあを日頃より支援してくださっている個人株主の皆様との交流を深め、また新たに応援していただける株主の方を増やすべく、上場以来初の試みとして「ぴあ個人株主懇談の集い」を今年10月に名古屋市内で開催しました。今回は愛知県在住の個人株主の方々、また株式を保有されていないお連れ様にもご参加いただき、社員との懇談会等を実施。3日間にわたる全5回の開催で合計350名の皆様にご来場いただき、貴重なご意見やご質問を数多く賜りました。



PFF スカラシップ最新作「恋に至る病」 香港国際映画祭で審査員特別賞を受賞

今年で34回目を迎えた「PFF ぴあフィルムフェスティバル」。石井裕也、犬童一心、園子温、李相日など日本映画界の第一線で活躍する映画監督を数多く輩出しています。そのPFFの新人監督育成システム「PFF スカラシップ」の第21作目となる「恋に至る病」(木村承子監督)が、アジア有数の国際映画祭「第36回香港国際映画祭」にて、「Young Cinema Competition」部門・審査員特別賞を受賞しました。また「PFF アワード2012」のグランプリ作品「くじらのまち」(鶴岡慧子監督)は釜山国際映画祭・コンペ部門や東京国際映画祭にて上映されるなど、国内外において日本映画の振興に寄与しています。



「恋に至る病」



「くじらのまち」

ぴあが出資・企画する注目のエンタテインメント(2012年11月以降開催予定の興行)

興行名	開催日	会場
<b>映画</b>		
「黄金を抱いて翔べ」	2012/11/3～	全国の上映劇場
「東京家族」	2013/1/19～	全国の上映劇場
「ひまわりと子犬の7日間」	2013/3/16～	全国の上映劇場
<b>音楽</b>		
ザ・ジャクソンズ	2012/12/6・12/7	東京国際フォーラム ホールA (東京都)
<b>演劇・ミュージカル</b>		
THRILLER Live/スリラーライブ	2012/12/18～12/27	森ノ宮ピロティホール(大阪府)
キャラメルボックス2012クリスマスツアー「キャロリング」	2012/12/3～12/25	サンシャイン劇場(東京都)
招聘ミュージカル「ウェルテルの恋～原作:ゲーテ 若きウェルテルの悩み」	2013/1/11～1/26	赤坂ACTシアター(東京都)
「テイキング サイド」	2013/2/1～2/11	天王洲 銀河劇場(東京都)
<b>イベント</b>		
シルク・エロワーズ「iD(アイディー)」	2013/2/15・2/16	五反田 ゆうぽうとホール(東京都)
	2013/2/22～2/24	福岡サンパレスホール(福岡県)
	2013/2/27～3/3	愛知県芸術劇場 大ホール(愛知県)
	2013/3/6～3/22	TOKYO DOME CITY HALL(東京都)
	2013/3/27～3/31	オリックス劇場(大阪府)

詳細については、チケットぴあのサイトでご確認いただけます。URLは [pia.jp/t](http://pia.jp/t) TEL 0570-02-9999

最近の出版物(2012年10月以降発売の出版物)

定刊誌	発売日	内容	価格
ウレぴあ	季刊	東海スイーツ本	10/11
TVぴあ(関東版、関西版、東海版、福岡/山口版、北海道/青森版)	月刊	最新!最強!究極のラーメン Final! 首都圏版	10/11
韓流ぴあ	月刊	名古屋美食堂	10/25
月刊スカパー!	月刊	お取り寄せ&ご当地グルメ 2013	10/25
		osaka 最新!梅田本	10/29
		恵比寿・代官山・中目黒食本 2013	11/8
		京阪神美食堂	11/15
		東京老舗名店案内	11/15
ぴあ&ASKA	10/16	プロが教えるとおきオススメ300 赤版	11/16
009 RE:CYBORGぴあ	10/18	東海手みやげ本 其二	11/21
		東京最高のレストラン 2013	11/28
		旅行・レジャー	
		最新!最強!究極のラーメン 2013 関西版	10/1
		最新!最強!究極のラーメン 2013 東海版	10/1
		東京新定番スイーツ 2013	10/2
		今、泊まりたい宿 東海・北陸版 Vol.2	10/1
		今、泊まりたい宿 関西・中四国版 Vol.2	10/1
		今、泊まりたい宿 九州・沖縄版 Vol.2	10/1
		冬ぴあ 東海版	11/8
		冬ぴあ 関西版	11/8
		冬ぴあ 首都圏版	11/8
		ファミリー	
		冬ぴあ ファミリー こどもと遊ぼう 首都圏版	11/15
		その他	
		間々田佳子の顔ヨガでアンチエイジング	10/25
		えのき氷&えのきレシピ	10/31
		「ちょっと干すだけでおいしくなっとう味がUP! 新・干し野菜レシピ」	10/31
		ダイアリー	
		ぴあダイアリー 2013	発売中

書店またはオンライン「ぴあ BOOK SHOP」にてお買い求めいただけます。URLは [piabook.com](http://piabook.com)



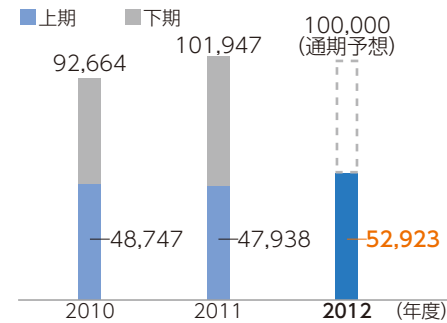
## 全体概況

ぴあグループの2012年度第2四半期における連結業績は、チケット販売が前期に引き続き好調に推移したことから、売上高・利益とも期初予想を上回る結果となりました。

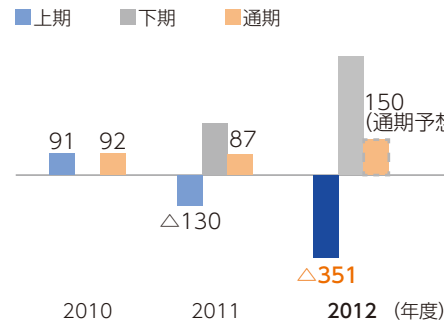
この結果、ぴあグループの第2四半期連結累計期間の業績は、連結

売上高529億23百万円(対前年同期比110.4%)、営業損失3億26百万円(対前年同期比2億22百万円悪化)、経常損失3億35百万円(対前年同期比2億17百万円悪化)、四半期純損失3億51百万円(対前年同期比2億20百万円悪化)と増収減益となりました。

### 連結売上高 (単位:百万円)



### 連結当期純利益 (単位:百万円)



### その他の指標

純資産・・・3,602百万円  
 総資産・・・25,794百万円  
 1株当たり純資産・・・252.96円  
 自己資本比率・・・13.8%

### Point 1

音楽ジャンルを中心とした大型興行のチケット販売が好調に推移し、売上高は順調に伸びております。

### Point 2

人気チケットの仕入コスト増加や、ソリューション・ビジネスの拡大に伴う費用拡大等により、一時的に粗利率が悪化しておりますが、期初予想に比べ改善しております。

## 通期の見通し

2012年度の通期業績見通しといたしましては、前回発表の予想数値に変更はございません。

### 2012年度連結業績予想 (単位:百万円)

	2012年度		2011年度	
	上期	通期	通期	実績
	期初予想	実績	予想	実績
売上高	45,000	52,923	100,000	101,947
営業利益	△ 350	△ 326	200	86
経常利益	△ 360	△ 335	170	93
当期純利益	△ 400	△ 351	150	87

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期末	当第2四半期末	科目	前期末	当第2四半期末
	(2012年3月31日現在)	(2012年9月30日現在)		(2012年3月31日現在)	(2012年9月30日現在)
資産の部			負債の部		
I 流動資産	30,029	22,951	I 流動負債	27,870	20,250
現金及び預金	15,857	12,311	買掛金	23,450	16,749
受取手形及び売掛金	13,021	9,275	短期借入金	400	100
商品及び製品	89	58	1年内返済予定の長期借入金	782	795
その他の流動資産	1,062	1,307	その他の流動負債	3,238	2,606
II 固定資産	3,360	2,842	II 固定負債	1,526	1,942
有形固定資産	279	283	長期借入金	945	1,349
無形固定資産	1,923	1,384	その他の固定負債	581	593
ソフトウェア	1,807	1,249	負債合計	29,396	22,192
その他	116	135	純資産の部		
投資その他の資産	1,157	1,174	純資産合計	3,992	3,602
資産合計	33,389	25,794	負債純資産合計	33,389	25,794

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期	当第2四半期
	(2011年4月1日～2011年9月30日)	(2012年4月1日～2012年9月30日)
売上高	47,938	52,923
売上原価	44,025	49,101
差引売上総利益	3,968	3,903
販売費及び一般管理費	4,072	4,230
営業利益	△ 104	△ 326
経常利益	△ 118	△ 335
四半期純利益	△ 130	△ 351

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期	当第2四半期
	(2011年4月1日～2011年9月30日)	(2012年4月1日～2012年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,856	△ 3,437
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 305	△ 179
財務活動によるキャッシュ・フロー	202	73
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	△ 0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 3,960	△ 3,545
現金及び現金同等物の期首残高	9,496	15,857
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,536	12,311

より詳細な財務情報については、ぴあ株式会社のコーポレートサイトでご確認ください。

<http://www.pia.co.jp/pia/ir/index.html>

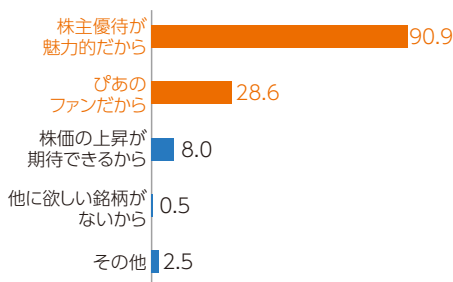
# 株主の皆様からの声

## アンケート結果のご報告

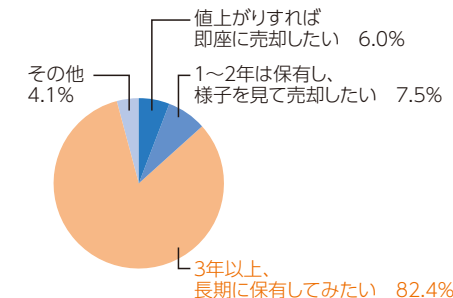
当社では、株主の皆様のお声を聞かせるため、株主様アンケートを実施しています。2011年度報告書に同封しましたアンケートにおいては約7,200名、今年6月23日開催の定時株主総会における来場者アンケートでは約460名（総来場者の約75%）、6月～7月に実施しましたWebアンケートにおいては約

1,400名、と数多くの株主様からご回答をいただきました。ここに、集計結果の一部をご紹介します。皆様から頂戴した貴重なご意見を真摯に受け止め、今後のIR活動ならびに事業活動に活かしてまいります。

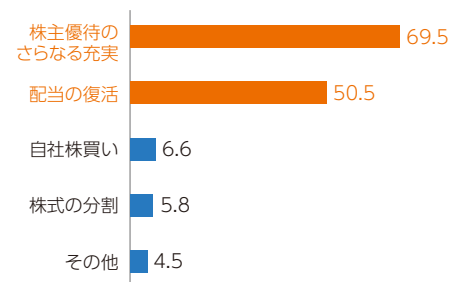
### Q1 当社株式の保有理由(複数回答) (単位:%)



### Q2 当社株式の今後の保有方針 (単位:%)



### Q3 当社株式への期待(複数回答) (単位:%)



【Q1～Q3：2011年度報告書に同封したアンケートの回答】

## ぴあへの要望

【業績に関して】「引き続き、業績向上に努めて下さい。」「業績面ではまだまだ上昇余地はあるはず。さらなる成長戦略を示して欲しい。」「夢のある未来へのビジョンも必要。株価の上昇を期待しているが、短期的ではなく長期的視点での経営を。」

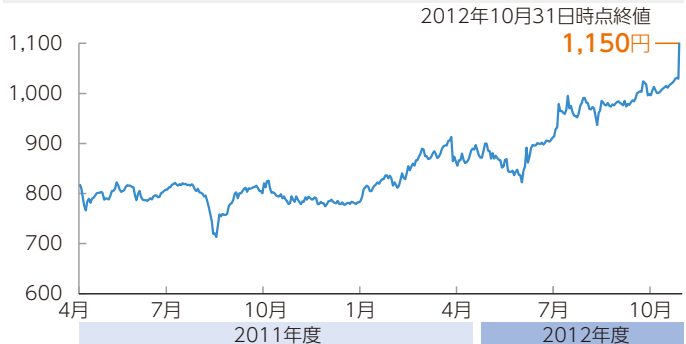
【株式に関して】「株主優待が魅力。」「長期保有しているので、早く元の株価に

戻って欲しい。そろそろ株価対策を。」「配当が復活したのには驚いた。記念配当ではなく、来期以降も配当を継続できるよう頑張る。」

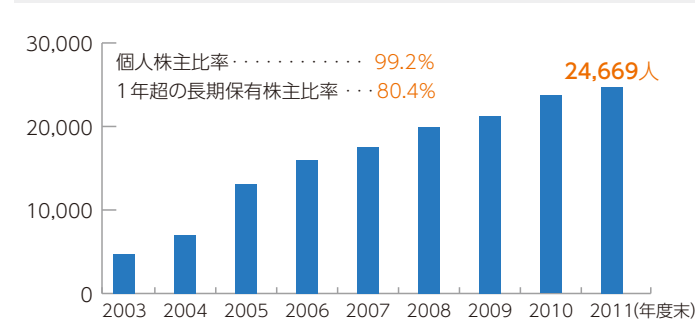
【その他】「情報誌「ぴあ」の休刊は、時代の流れとはいえ残念。それに代わる新しい“何か”を期待しています。」「文化の発信源として、今後も応援しています。」「原点を大切にしつつ、もっと前進を！」

## 株主データ

### 株価の推移



### 株主数の推移



## 会社概要 (2012年9月30日現在)

商号	ぴあ株式会社 (PIA CORPORATION)
本店所在地	東京都渋谷区東1-2-20 渋谷ファーストタワー
設立	1974年12月
資本金	4,239,158千円
社員数(連結)	247名
会計監査人	有限責任監査法人トーマツ

## 役員

代表取締役社長 (CEO)	矢内 廣
取締役	林 和男
取締役	白井 衛
取締役 (COO)	唐沢 徹
取締役	木本 敬巳
取締役	夏野 剛
取締役 (社外)	佐久間 昇二
取締役 (社外)	富山 和彦
取締役 (社外)	後藤 克弘
常勤監査役	能勢 正幸
監査役	斎藤 廣一
監査役 (社外)	松田 政行
監査役 (社外)	新井 誠

## 主要グループ会社

### ぴあデジタルコミュニケーションズ株式会社

所在地/〒150-0011 東京都渋谷区東1-2-20 渋谷ファーストタワー  
事業内容/コンテンツメディア(紙媒体・Web・モバイル)の企画・開発・販売・コンサルティング及び各種プロモーションの企画・開発業務

デジタルネットワーク社会において多様化するコミュニケーションニーズに対応するために、コンテンツプロデュース力を核とした様々なソリューションを提供しています。

### チケットぴあ九州株式会社

所在地/〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神3-15-24 三天第一ビル5F  
事業内容/九州地区におけるコンピュータチケットサービス事業

九州・沖縄地区でのチケット事業を推進しています。また、九州各県の情報誌に掲載されるチケット販売情報の配信等も行なっています。

### 株式会社東京音協

所在地/〒150-0011 東京都渋谷区東1-2-20 渋谷ファーストタワー  
事業内容/音楽・演劇・スポーツ・映画・その他イベントの開催、チケット販売並びに情報提供

働く人たちに健全で良質なエンタテインメントを提供し、心豊かな人づくり、明るい職場づくりと豊かな地域社会の形成を目指しています。2010年よりぴあのグループ会社として再スタートを図り、引き続き興行主催、レクリエーションイベント開催、チケット販売等を行ない、企業の福利厚生サービスを強化するとともに、エンタテインメント界の活性化を図っています。

### チケットぴあ名古屋株式会社

所在地/〒461-0005 愛知県名古屋市中区東桜2-13-32 ぴあ名古屋ビル  
事業内容/中部地区におけるコンピュータチケットサービス事業

ぴあ(株)中部支局と連携し、中部地区でのチケット事業を推進しています。





ぴあ株式会社

〒150-0011 東京都渋谷区東1-2-20 渋谷ファーストタワー  
TEL (03) 5774-5200 (大代表)  
http://www.pia.co.jp/pia

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
配当受領株主確定日	毎年3月31日 (中間配当を実施するときの株主確定日は、9月30日です)
公告方法	電子公告 <URL> <a href="http://www.pia.co.jp/pia">http://www.pia.co.jp/pia</a> (ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞にて行ないます)
株主名簿管理人 事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	※平成25年1月より下記に変更となります 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	電話 0120-176-417 ※平成25年1月より下記に変更となります 電話 0120-782-031
インターネット ホームページURL	<a href="http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html">http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html</a>
特別口座管理機関 事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 〒168-8507
郵便物送付先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	電話 0120-288-324
単元株式数	100株

※住所変更等の事務手続きは、お取引の証券会社等にてお手続き下さい。

## 株主優待制度について

2012年3月31日現在の株主の皆様に対し、株主優待を実施しています。

### 1. 優待品目と事前選択

チケットぴあギフトカード、オリジナル図書カード、オリジナルシネマギフトカードの3品目。

下記優待金額の範囲内で、自由に組み合わせて事前選択していただくことができます。

### 2. 優待区分

	株式保有期間 2期以上(1年超) 継続保有の場合	保有期間が 左記に満たない場合
期末保有株式数		
100株以上1,000株未満	5,000円分	2,500円分
1,000株以上	11,000円分	5,500円分



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。